

## 記事解説

平成 30 年 7 月 6 日  
日本原子力研究開発機構

件名：もんじゅ 燃料処理に数千億円か 国内外対応施設なく 廃炉総額 1 兆円超えも

平成 30 年 7 月 6 日（金）福井新聞 4 面

もんじゅ廃炉 1 兆円超か 「燃料処理に新施設」費用増

平成 30 年 7 月 6 日（金）日刊県民福井 8 面、中日新聞 2 面

## 記事概要

- ① もんじゅの使用済み燃料の処理に数千億円以上かかる可能性がある。廃炉費用に燃料処理費は含んでおらず、廃炉の総額は 1 兆円を超える可能性が出てきた。
- ② もんじゅの燃料は毒性の強い放射性物質プルトニウムを多量に含み、国内外に処理できる施設はなく、海外の業者に高額で委託するしかない。
- ③ ウラン・プルトニウム混合酸化物燃料（MOX）燃料は 4～9%で、輸送費などを含め処理費用は 1 体約 10 億円。
- ④ もんじゅの燃料は通常の数倍以上の処理費がかかるという。
- ⑤ もんじゅには処理対象となる燃料が約五百四十体あり、費用は数千億円以上になる見通し。
- ⑥ 関係者は「具体的な処理方法は決まっていない。現実的にはフランスの業者と交渉することになるだろう」としている。

## 事実関係

- ① 現時点においては、具体的な使用済み燃料の処理方法も含めて検討している段階であり、試算をした事実はない。  
なお、もんじゅ廃止措置計画において「使用済み燃料については、国内又は我が国が原子力の平和利用に関する協力のための協定を締結している国において再処理を行うため、国内外の許可を有する事業者に譲り渡す。その具体的な計画及び方法については、第 1 段階（燃料取出し期間）において検討することとし、第 2 段階（解体準備期間）に着手するまでに廃止措置計画に反映して変更認可を受ける」こととしている。
- ② 海外業者に委託することを決定した事実はない。
- ③ 処理費用について 1 体約 10 億円との試算をした事実はない。
- ④ 数倍以上の処理費がかかるという試算をした事実はない。
- ⑤ 五百四十体の燃料の処理費が数千億円との試算をした事実はない。
- ⑥ 現時点においては、国内外の許可を有する事業者に譲り渡すための技術的課題の検討を実施しているところであり、特定国の業者と交渉することを決定した事実はない。

以上